

# 3年ぶりの餅つき大会



当日は寒い中でしたが天候にも恵まれ、年末恒例のもちつき大会が会長、理事長をお迎えし3年ぶりに実施されました。ご利用者の方たちも久しぶりの餅つき大会ということもあり、始まる前より楽しみにされている様子でした。皆さんの「よいしょ、よいしょ」と一所懸命におもちをつく姿がとても印象的でした。お持ち帰り用にパック詰めされたおもちを見て、「わあ、大きい」と嬉しそうにおもちを持ってかえる姿も見ることができ、来年も餅つき大会を実施することができればと感じた一日となりました。

餅つき大会に際して、朝早くからお手伝いをいただいたご家族の皆さまや泉佐野市社会福祉協議会サロンドボランティアの皆さま、大阪体育大学の学生の皆さま、学生ボランティア募集に当たってご協力いただいた大阪体育大学教職支援センターの皆さま、本当にありがとうございました。紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

倉澤 威



## お餅も美味しかったと好評でした!



# 第3回福祉職員研修【中堅職員】

私は、ささゆり作業所で仕事をさせていただいて、パート勤務期間を含めて7年目になります。

今回の研修では、中堅職員として必要なスキルについて三日間勉強させていただき、①支援は点ではなく線としてつながっている。(過去⇒現在⇒未来) 時間軸を意識しながら課題解決にあたること。②自分の伝えたい内容を相手にも同じイメージが出来るように伝える。(共有・統一)同じイメージを持つことで、職員が統一した支援を行なう事が出来る環境を作る。



③中堅職員は組織にとってのエンジンである。(中堅

職員に求められるスキル) ④後輩職員育成の為に必要なスキル(見てわかるステップアップ)(計画的) ⑤後輩職員に支援内容を説明する際には、「なぜ」そのような支援を行っているのかという根拠の部分をきちんと伝えることが重要であり、ここが理解できていれば、手法は人それぞれでも統一した支援が可能である。

今回の研修を終えて、中堅職員としての組織での立ち位置、自分のなすべき仕事内容を自覚することができました。今後は、中堅職員として後輩職員・新任職員の育成に力を注ぎ、且つ他職員との連携や調整を行っていくことで、円滑に効率よく業務を遂行することが出来るような動きをし、ご利用者への「気づき」を忘れずに日々の支援に努めていこうと考えています。

佐賀 永治

# 平成30年度 新任職員研修

講師(北村友隆氏)が障がい者福祉に携わるきっかけから、今求められる支援についての内容となっていました。生活指導員として働いていた際には、ご利用者への思いからチーム一丸となり、取り組まれたそうです。2003年に利用契約制度へ移行しましたが、ご利用者の生活は変わっていないと言われました。また制度を変えても、ご本人や家族が受ける周囲からの視線は変わらず、本当の意味での社会改革とはなっていません。

このことから、制度の内容を学ぶだけでなく、その制度がどのように社会に反映されているか、当事者の生活はよくなっているかを知る必要が

あると感じました。その為には、ご利用者やご家族の生活を知り、求められるものに気付かなければなりません。また、今求められる支援者像は、初心を忘れない人と、相手の立場になって考えられる人とのことです。

今後は自分の成長と向き合いながら、初めのころから後退している部分はないかを振り返り続ける事が、必要だと感じました。



奥 陽澄実